

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200042		
法人名	有限会社シャトル		
事業所名	グループホームことおか		
所在地	秋田県山本郡三種町鹿渡字千刈田255-1		
自己評価作成日	平成30年12月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成31年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム裏にある畑で、種から育てた花を収穫し乾燥させてポプリを作り、町民祭で来場者の方たちへプレゼントして喜んで頂いた。このポプリは利用者の持っている能力を最大限に活かし、一人ひとりの力を合わせて制作したもので利用者・職員共に感動を得ることが出来た。町の社会福祉協議会主催の市民後見人養成講座の体験実習生の受け入れなどで、日頃の利用者との関わり方を見ていただき、地域のあらゆる方たちに認知症の理解貢献に力を入れている。利用者がメニューを選べる「選択メニュー」の日を設けたり、利用者が地域のスーパーに出かけ、食材の買い出しをし、役割分担して調理する「調理レクリエーション」も行って食事を楽しんでいる。医療・防災面でもサポートできる体制が整い安心して生活できるようになっている。お客様を明るくお迎えし、和めるホームになるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

彼岸花作りや野菜作り、調理レクリエーション、リトミック体操など日々の暮らしの中に様々な活動を取り入れることで個々の能力を見極め、残存機能を発揮できる場面づくりを職員が一丸となって支援している事業所である。日々の活動が単に楽しいだけではなく、残存機能の維持や認知症の進行予防に役立っていることを職員が認識しながらケアを実践している。
ホーム独自の地域貢献として、手作りの彼岸花やポプリ・リースを地域の方々に配布する活動は毎年継続され、活動の中心にはいつも利用者があることを職員が共通認識として持っていることがうかがわれた。訪問当日、職員のさりげない言葉かけや笑顔を引き出す対応に何度もほっこりする場面があり、職員が一丸となって優しい笑顔で心の和を創りあげる努力をされていることがうかがわれた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立当初、代表者・職員が創り上げた理念はそのまま今も引き継がれ”優しい笑顔は和を創る”を介護の基本として受け入れ根付いている。その基本理念はホーム内の各所に掲示し常に意識付けに役立っている。	開設当初に掲げた理念「みんなの優しさと笑顔で創りあげる心の和」が今も介護の基本として日々の業務に生かされていることが、管理者からの事業内容説明や職員の支援状況からうかがうことができた。更に職員個々に年間の取り組み目標を掲げている他、毎月の職員会議で理念の具体的な内容について取り上げることで意識づけにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の各イベントには積極的に参加、今年の秋には手作りのポプリを文化祭で地域住民にプレゼントし交流した。避難訓練には毎年地域の消防団や近隣の建設会社社員から参加いただき協力を得ている。	民家に隣接している立地ではないが、地域の方が季節の花を届けてくれたり、高校から実習生を受け入れたり、クリスマス会に子供たちを招いたり等地域との交流を積極的に行っている。ホームの畑で種から育てた花でリースやポプリを利用者と一緒に作り、交通安全運動や地域の文化祭で配布するなど地域貢献活動も積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	オレンジ(認知症)カフェ参加で地域の方に支援の方法など直接ご覧頂いたり、今年度は市民後見人養成講座では当施設の認知症介護の実践報告をした。又、その講座の施設体験実習を受け入れ認知症の理解に貢献している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進員会議は2ヶ月に1回定期的に開催、活動報告や利用者の近況報告で参加者からの意見・助言を頂いている。また、情報交換の場としても貴重な時間として大切に日々のケアの向上に繋げている。	地域包括支援センターや社会福祉協議会、地区の自治会長などが出席している他、毎回利用者代表も出席し、ホームの活動報告や話し合いを行っている。会議の場で利用者が得意の笹餅づくりを披露するなど、和やかな中にも本人の自信につながる場面づくりに努めていることが議事録等から確認できた。要望していた車両(9人乗り)が昨年6月に納入され、外出支援がより効果的に実施できるようになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回の運営推進会議に出席して頂きホームの実情を理解頂いている。その上で取り組みに対して助言があったり、又問題解決に協力して頂いたりしている。	町の担当部署の方が毎回運営推進会議に出席し、情報交換や協力関係を築くことができている。生活保護担当の来訪や市民後見人養成講座での実践報告、養成講座受講生の実習受け入れ等、積極的な関りができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回は社内研修にて職員全員が身体拘束について話し合う。日常ともすれば気づかずに拘束してはいないか意見を出し合っている。又、身体拘束をしないケアについても研修内で理解し実践に繋げている。又、施設内外の不要な施錠はしていない。	実施事例はない。マニュアルが整備され、毎年研修でも取り上げ、理解・実践につなげている。今年度は10月の内部研修で取り上げ、「研修参加記録簿」に研修報告と職員全員の確認サインが記されていることを確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待に対しては特にお互いに注意しあい、あってはならないこととして注意喚起を呼びかけ防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	複数の利用者が権利擁護制度を利用しており、成年後見人制度も利用している。職員は全員研修を受け制度について学び、必要な時は関係機関と密に連携を取り支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は一方向的にならないよう家族・ご本人の不安や疑問をよく聞き入れ応じるようにしている。又、制度改正による文書発送の折は疑問・質問等連絡先を明記して十分な理解・納得に努めるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支払い時、面会時には利用者の発した言葉などを御家族などから聞くことで、認知症の方が職員に表せない思いをすくいあげ個々のケアや運営に反映させる糸口をつかみ、それを反映させている。	利用者の満足度を把握するために[食事][お風呂][行事・活動][トイレ][職員][最後に]の6項目について毎年アンケートを行っている(今年度は11月に実施)。また、家族が利用料の支払いや面会等で来訪した際、意見・要望をうかがうよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の職員会議には施設長の出席があり、身近な存在として意見を出せる機会を作り、管理者会議においても職員会議での皆の意見・提案を発表し、事業所運営に反映させている。	毎月の職員会議に施設長が出席し、職員から意見や提案を聞く機会を持っている。昨年6月、要望していた9人乗り車両の設置が叶い、より効果的な事業運営に役立てることができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の目標達成に基づき努力・実績・勤務状況を把握し評価することで年2回の賞与や給与に反映させ自らの向上心を仰いでいる。毎年親睦会を開催し事業所内の情報交換、代表者との意見交換など親睦を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	職員自身が参加したい研修を選べるようにし、毎月1回すべての職員が同一の研修を受け、その場で質疑応答できるようにしている。外部の研修では質問できないような内容でも皆で話し合えるような雰囲気作りをしてその場ですぐに実践ケアに活かせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修先での他施設との情報交換はとても重要と心得ており、知り得た情報は社内会議等で伝達している。そのことは自施設のサービスの質の向上に役立っていると思う。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集に基づき、ご本人のお話に耳を傾ける他表情などから不安・要望を読み取るようにし、本音を引き出すような信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族構成ごとにある様々な不安そして要望、困っていることなど、話しやすいような雰囲気づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑作りのノウハウから収穫物を利用し、利用者からのアドバイスを受けながら保存食を作っている。共に支え合いながら生活できる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	疎遠だった親子の関係が施設入所することで本来の関係に戻った例もあり、それぞれの想いを汲みながら相互に支え合えるような支援に力をいれている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	体力が衰え、これまでのように仲間と外出出来なくなっても、時にはハガキや電話、又、手作りの作品をお届けするなど関係が途切れることのないよう支援している。	家族等の協力を得ながら一時帰宅や友人宅訪問、知人の年祝いに出席等の支援をしている。利用者が手作りした彼岸花を利用者自ら家族やお世話になっている地域の方々に届ける活動は毎年継続されている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午睡・就寝以外はホールにて全員がくつろげるような空間作りに力を入れており、その分利用者同士の関係に職員は目配り・気配りを怠ることのないように努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年に1回は手作りの品をご家族にお届けしたり、彼岸の墓参り等で相談や支援することがないかお聞きし、これまで築いてきた関係が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない時間の中でふともらした言葉から、また入浴時や夜勤帯など1対1の関わりの中からそして面接時の本人と家族の会話から心の声を探りカンファレンスで検討、本人の立場に立ったプランの作成に努めている。	[食事][お風呂][行事・活動][トイレ][職員][最後に]の6項目について毎年アンケートを行い、満足度や思い・意向の把握に努めている。また、日常会話の中で本人が発した言葉や表情・仕草等を大切に、ケアプランに反映させている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は特に重視しており、家族や関係者から常に情報を得られるようにしている。それに加えて今、共に暮らす中で本人にとって生きがいを見出すように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを最大限に活用し、職員間で情報共有し一日の過ごし方や心身状態に目を配り、少しの変化にも気付けるように努めている。異変時は即時対応を心がけている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に担当職員を配置することで個々のケアに一層目が行き届くようにしている。本人や家族等関係者も含めてさまざまな情報を出し合い、現状に合った介護計画を作成している。	ケース担当者が課題やニーズを提出後、職員会議でスタッフ全員から気づきやアドバイスなどを出してもらい、計画作成担当者がまとめている。利用者が発した言葉をそのままニーズとして記載し、本人の思いを大切にすることの重要性を認識していることがうかがわれた。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉をそのまま残した介護記録をはじめ、一日の様子を記した業務日誌など実践⇒結果⇒工夫も全て記録に残している。それらの情報を新たな実践や介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の駐在所の安全講話・寺の住職による盆供養が定着。近所の地域ボランティアより、自宅の庭で育てた花が四季折々に届けられる。安全で心豊かな生活を送れるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人はもとより、家族の意向も大事にした受診を行っており、受診時は主治医への細かな情報提供に努めている。かかりつけ薬局からは相談に応じて適切かつ、専門的なアドバイスをもらっている。	近くの内科医院が2週間に1回往診。他医療機関の往診を月1回受ける方、通院支援を月1回している方等個々の希望に応じた支援をしている。歯科医の訪問診療も希望に応じて対応している。薬局との関係も良好で、都度相談し、適切なアドバイスをもらっている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護又、嘱託医と共に往診に来る看護師には医師には相談出来ない些細な気づきなどの情報を伝え、助言を頂いている。隣接する施設の看護師はすぐに駆け付けてくれる心強い点がある。介護と看護での協力で利用者の健康維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院と緊密な連携を取り安心して治療に専念できるように支援している。早期に退院できるように病院関係者と病状について話し合い情報交換するように努めている。日頃より病院受診の際には関係者との良好な関係作りに努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを体験したことで、ご本人や家族に対して終末期に対しての話し合いの際の説明が充分出来るようになった。ご本人・家族・主治医や地域の関係者・職員が一つになり協力することで支援がより強く発揮できるような取り組みにしている。	入居時、「重度化した場合における(看取り)指針」に基づいた説明を行っている。重度化した場合には改めて家族等と話し合い、過去の看取り事例を参考にしながら、本人・家族の意向に沿えるよう関係者が一丸となって取り組む体制を整えられるようにしている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急救命講習を受け、急変・事故発生時に対応出来るよう準備している。又、マニュアルは常に目の届く場所に置くことで不安があった時すぐに開いて見ることができるようになっている。隣接しているショートステイ玄関にはAEDの備えもある。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の消防団、近隣の建設会社職員から応援を受け、避難訓練を実施している。又、役場へ出向き立地条件を把握し近隣住民から災害時に応援して頂くように連絡網を作成、運営推進会議でも日頃より災害に対して助言を頂いている。	年2回避難訓練を実施。内1回は鹿渡地区消防団の協力を得ている。地域住民には運営推進会議を通じて参加協力を依頼。日没後に行った夜間想定訓練では、7~8名の消防団員の他、近隣の建設会社の職員が投光器をもって駆けつけるなど地域との協力体制の強さがうかがわれる。非常食の備蓄については毎月の職員会議で消費期限等を確認し、入れ替え等の作業を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は研修で学んだ人格の尊厳やプライバシー保護について日々の介護業務に活かし、さりげない言葉掛け、思いやりに溢れた対応に努めている。	日々の業務の中で、一人ひとりの思いを大切に、職員一人ひとりが言葉遣いに気を付けるようにしている。特に排泄介助の場面では、プライバシーを損ねないような配慮をしている。訪問当日、職員のさりげない言葉かけや笑顔を引き出す対応に何度もほっこりする場面があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に見合った言葉掛けで表出が苦手な方の思いを引き出し、日々の何気ない会話の中から自己決定ができるように、普段の信頼関係作りに努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家族や関係者から得た情報を基にし、在宅時の生活ペースを変えないように一人ひとりのその日の体調に合った時間配分をしている。その他に希望にも添えるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば職員と同行し買い物に出かけている。ご本人の好み、ご本人にふさわしい物を選ぶような支援をしている。家族の意向も取り入れながらその人らしいおしゃれが楽しめるように努めている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員サイドにならないようなメニューの提供に心がけ「選択メニュー」では2種類から選択出来るように、写真を見て選んでいただいている。調理レクリエーションでは、材料を利用者がスーパーに買い出しに出かけ、それを分担して調理を楽しんでいる。食事の後は、おぼんや食器拭き等の片付けもして頂いている。	午前のお茶の時間には希望する飲み物を提供している。可能な方には自分の名前と飲み物名を書いてもらっている。調理レクリエーションでは、材料の買い出しから調理まで、利用者一人ひとりが参加できる場面をつくり、楽しめるよう支援している。ホーム敷地の畑で利用者と一緒に収穫した各種野菜は、日常の食材の他、漬物などの保存食としても利用され、食事場面で楽しい話題作りの一つにもなっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の個々の水分量が一目で分かるような表を作っている。一食ごとの食事量、残した品名から何が不足か把握できるような個人別の記録もある。隣接したショートステイの栄養士に相談しアドバイスも取り入れている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力に合わせた介助方法でケアを行っている。舌苔の観察は怠らないように職員に周知し徹底されている。毎日夕食後には口腔ケア用品・義歯の洗浄・殺菌も欠かさず行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	平均年齢と介護度が上がっている現状の中、個々の排泄パターンを記録することで職員間で情報共有が出来るようにしている。プライバシーに配慮したさりげない誘導で自立に向けた支援をしている。	トイレでの排泄を基本としているが、機能低下に伴う介護の度合いが進んでいる状況にある。一人ひとりの排泄状況を記録することで支援スタッフが個々の排泄パターンを把握し、情報を共有しながら適切な排泄支援に努めることができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の重要性はよく理解しており、水分補給・運動・調理方法など充分考慮した上で提供している。レクリエーションや体操にも喜び楽しんで参加出来るよう工夫し、自然排便に向けた対応に力を入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者個々の心身の状態を見極め、ご本人が楽しんで入浴できるように心がけている。入浴後の感謝の言葉や満足した表情は職員の喜びでもあり、時にはお湯の色・香りを変え、気分転換できるように配慮している。職員は希望があればいつでも入浴できるよう準備している。	週3回(月・水・金)の入浴を基本としているが、要望があればいつでも入浴できる体制になっている。浴室は3方向からの介助が可能で、洗い場も広く設定されている。時々、お湯の色や香りを変えて気分転換できるよう配慮している。より安全にゆっくり浴槽に入っていたくために、隣接のショートステイの特殊浴槽を利用される方もいる。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力に見合わせたレクリエーションやドライブなどで快い睡眠がとれるように支援している。又、ご本人の希望があれば休息できるような支援もしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職では判断出来ない薬の用法・用量かつ副作用などに関し、利用者個々のファイルに明記し処方に変更があった場合は速やかに変更し情報の共有に努めている。服薬介助後は体調の変化を見逃さないよう観察している。医療機関や薬局などからも情報をアドバイスを得ている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から個々の力量を見出し、その役割を分担し満足感を得ることが出来るような創作活動。自分が誰かの役に立っていると感じてもらえるように、作業や手伝いの後はねぎらいや感謝の言葉を掛けるようにしている。又、役割分担に格差が出ないような配慮・気配りをしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベント参加やドライブには全員参加をモットーにしている。利用者からの突然の外出の希望で出かけることもある。在宅時の隣人の長寿の祝いや親戚の法事等の外出の支援もしている。	ホーム周辺の散歩、敷地内の東屋でのお茶・食事、食材の買い出しの他、地域のイベントやドライブ等日常的な外出支援に努めている。家族の協力を得ながら知人の長寿の祝いや親戚の法事に行かれる方もいる。軽ワゴン車の他に9人乗りの車両が配置されたことで、全員参加のモットーを叶えることができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	敬老式典に出席のためホームで準備したお金を持参し、職員同行のもと洋品店にて洋服選びもする。自らレジにて支払いすることで買い物の楽しさ、お金の大切さを感じていただいている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	恒例の暑中見舞い・年賀状は手作りをしている。職員は個々の能力に応じ時には直筆であったり、時には代筆だったりするが出来るだけコミュニケーションをとりながら本人の思いを家族や相手に伝えるように支援している。深夜以外いつでも電話できるように対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内全体、又居室内の換気、温度調整、加湿器利用など毎日快適に過ごして頂けるように配慮。野の花やポランティアから頂く季節の花々を飾り、四季を感じて頂いている。壁飾りには利用者の力を借りて作った季節感あふれる創作物を飾っている。	訪問当日、大きな窓から明るい日が差し込むリビングで、利用者が「来た、来た」「行った、行った」などと列車が通り過ぎる景色を楽しんでいた。壁には利用者個々の力が発揮された作品や行事等の写真が飾られている。食卓毎にさりげなく飾られた花から、居心地よく過ごせる空間づくりとスタッフの優しさが感じられた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの利用者がホールにて過ごしており、それぞれの気の合った同士で席をとり、トラブルが発生しないよう職員が目配りを怠らずに見守りしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時の馴染みの物の持ち込みや配置場所など家族と相談し、戸惑うことのないようにそして居心地よく生活できるような支援をしている。	居室には家族の写真や自筆の色紙などが飾られていたり、日常取り組んだ作品が飾られていたり個々に応じた居心地よく過ごせる空間づくりに努めていることがうかがわれた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	9人9様の出来ること、わかることが違い職員はそれぞれの力を踏まえることで安全安心そして自立できるような支援を心がけている。移動場所全てに手すりがあり、車椅子においても余裕あるスペースを確保している。各居室やトイレなどは大きな文字で表示するなど、戸惑うことのないように配慮している。		